

## 一・二番茶の減収・品質低下をもたらす

### 越冬後春ダニの防除対策

今年の冬は平年より2℃ほど高い気温になりました。また、南国鹿児島は立春を過ぎ、急激に温かい日が多くなり、例年より春の訪れも早い感じがします。しかし、まだ三寒四温の寒暖の変化を繰り返しながら春に向かうと思われまますので、晩霜対策などにも十分な注意が必要です。茶園では一番茶への期待を込め整枝作業なども始まりました。今回は春に発生し、一・二番茶に被害をもたらすカンザワハダニなどの発生状況と防除対策についてお知らせします。

#### ★ ハダニの発生のしかた

主に春に発生し、一番茶の摘採期頃に多くなり、一番茶の減収や品質低下などの被害をもたらします。一般に雨が少なく、乾燥した温かい天候が続くと急増します。10月後半～11月前半の気温（17.5℃以上で、休眠率が低下）および1月の平均気温（7.6℃以上で、産卵数増加）が高い気象は多発要因になり、また、越冬密度が高く、3・4月の気温が高く、晴天・乾燥が続く年は多発生します。

冬の間は、日当たりの良い茶畦南側の裾葉で朱色をした雌成虫で越冬しています。しかし、温かい南九州などでは真冬でも年によっては休眠せず、少しずつ増殖しますので卵や幼虫がみられることがあり、今年はこのような傾向がみられます。一般的には平均気温が8～10℃以上になる2月下旬頃から雌成虫は休眠から醒め、体色も濃赤色に変わり、本格的に産卵を始め、増殖します。

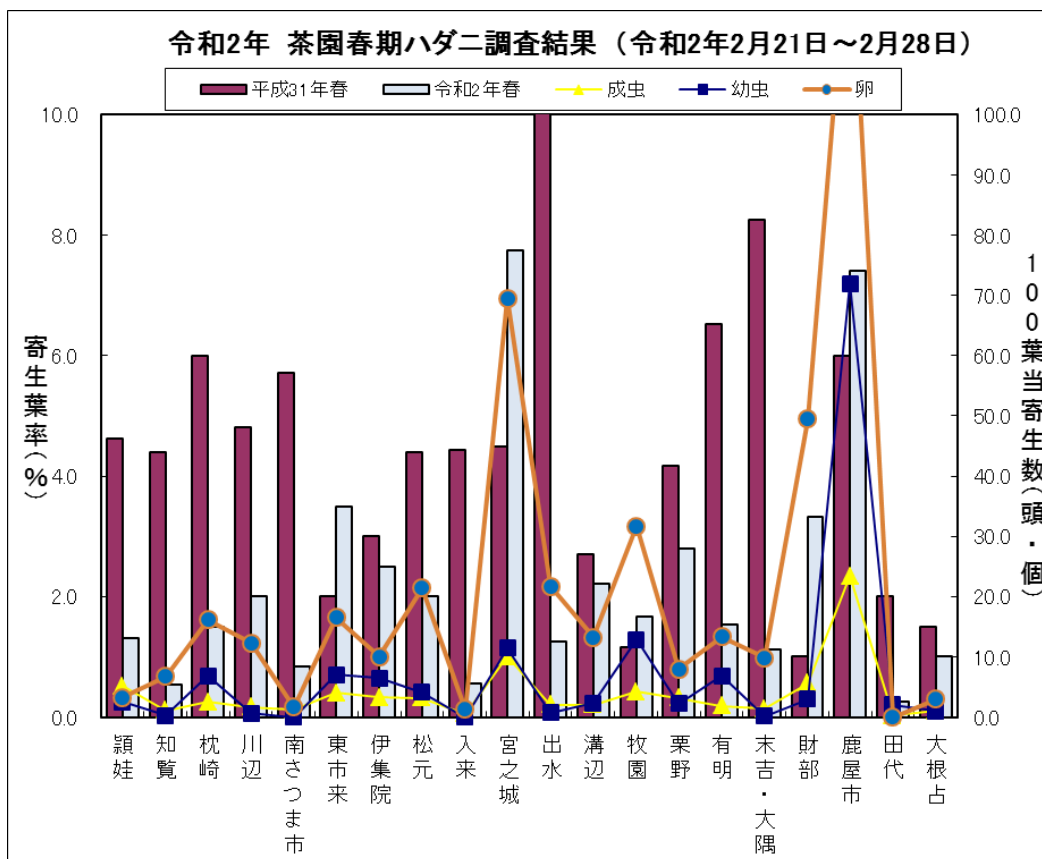
#### ★ 今年の発生状況と予測

##### 越冬密度やや高い 発生はやや少、増殖やや早い

春の発生や越冬密度に影響する昨年秋の発生は平年よりやや多い状況でした。その後、晩秋から越冬期の気象は気温が平年より高く推移しましたので、休眠雌率は低く、越冬密度もやや高い状態で推移し、県病虫害防除所の調査結果は1月が並発生で、3月の予察情報はやや少発生と予測しています。

2月21～28日に行った本会調査における県内産地別の平均寄生葉率は図に示すように2%前後で、昨年よりかなり低い状況でしたが、産地間の発生差は大きく、宮之城、鹿屋などの産地は8%弱で、高いでした。また、一部調査茶園ではかなり高い状態の園もあり、地域間、圃場間差がみられました。越冬密度は全般に低い状態で、成虫の寄生頭数は殆どの産地が10頭以下/100葉で、少ないでした。幼若虫数も10頭以下/100葉でまだ少ないでしたが、卵は産地間差があるもののがかなり多くみられ、本格的に産卵が始まる産卵期の状態で、これまでの気温が高い傾向のため増殖は早まっている状況でした。

なお、ハダニ類の多発生がこの数年続いています。ハダニ類が寄生している園も一部で認められました。



## ★ 防除対策

越冬後の春期ダニ防除は、多発する恐れのある一二番茶の被害を未然に防ぐ上で欠かせません。確実にいきましょう。

**春ダニの防除は増殖が進んでからは手遅れ・・・先ず自分で越冬ハダニを調べ・・・防除対策**

裾葉 100～200 葉採取観察	寄生率5%以上かどうか 10 葉当たり 1 頭以上 (成・幼虫・卵) いるか 幼虫・卵が増え始めているかどうか	薬剤防除
------------------	---	------

基本的防除は平均気温が 10℃を超える頃 (3月上旬) にハロックフロアブル、ダニゲッターフロアブル、茶ちゃっとフロアブルなどを散布します。今年は概ね平年どおりの散布で良いでしょう。

また、増殖がかなりすすんで発生が多い園ではダニサハラフロアブルを散布します。

## ★ 越冬後ハダニ防除のポイント

- ① この時期の防除は増殖開始期であり、長い効果の持続が要求されるため殺卵・殺幼虫効果が高く、残効性の長い薬剤の使用が望ましい。(ハロック・ダニゲッター・茶ちゃっと)
- ② 多発生してからの防除効果は低下するので、発生初期防除に努める。
- ③ 天敵類 (カブリダニ類など) に影響の少ない薬剤を選ぶ。
- ④ 殺成虫効果主体で速効性の薬剤は一番茶摘採期頃に発生が増加するので避ける。
- ⑤ 十分な散布量で、この時期寄生の多い裾部や葉裏によくかかる散布法で防除効果を高める。展着剤の加用はダニおよび葉裏への薬液の付着が高まり、効果が安定する。

★ 各産地・越冬後カンザワハダニ防除時期の目安

地帯	地域	防除時期
離島	種子島 屋久島	2月末～3月5日
早場	枕崎 知覧南部 穎娃南部 大根占 鹿屋南部 有明南部 志布志	3月1日～3月5日
やや早場	知覧中部 川辺 穎娃中部 有明 鹿屋	3月3日～3月8日
普通	知覧北部 伊集院 東市来 松元 宮之城 入来 樋脇 出水 溝辺 国分 末吉 松山 大隅 田代	3月5日～3月10日
遅場	栗野 牧園 霧島 財部	3月7日～3月12日

★ 春期のダニ類などの薬剤防除法

発生の状況	防除時期	主な防除薬剤	使用濃度	使用基準
通常発生の場合	2月下～3月上旬	ハロックフロアブル	1000～3000倍	14日前 1回
		ダニゲッターフロアブル	2000倍	7日前 1回
		茶ちやつとフロアブル	2000倍	14日前 1回
多発生の場合 (発生が早い場合)	3月上～下旬	ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回
		スターマイトフロアブル	2000倍	7日前 1回
一番茶期まで発生が続く場合	3月下～4月上旬 (萌芽—1葉期)	ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回
		スターマイトフロアブル	2000倍	7日前 1回
一番茶摘採後	4月下～5月上旬	アグリメック	1000倍	7日前 1回
		ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回
		ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回
ハダニ・サビダニ類 併発生の場合	2月下～3月上旬	ダニゲッターフロアブル	2000倍	7日前 1回
		茶ちやつとフロアブル	2,000倍	14日前 1回
一番茶後サビダニ類 多発生の場合	4月～5月上旬	アグリメック	1000倍	7日前 1回
		サンマイトフロアブル	1000～2000倍	14日前 2回
		スターマイトプラスフロアブル	1000倍	14日前 1回